

修理固成之說

特44
32

東京古書館

大日本教育會圖書館			
一	八	三	一
冊	九	架	七
	號		函

新刊

014115-000-3

特44-32

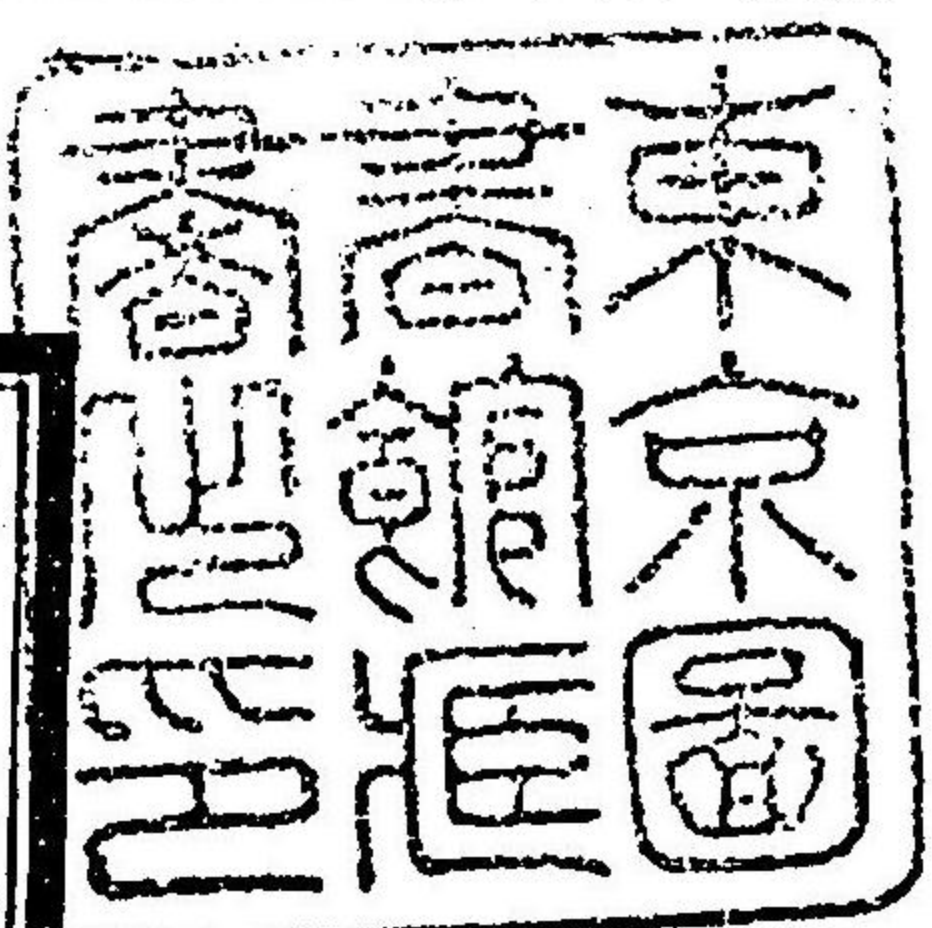
修理固成之說

中野 政贊/編

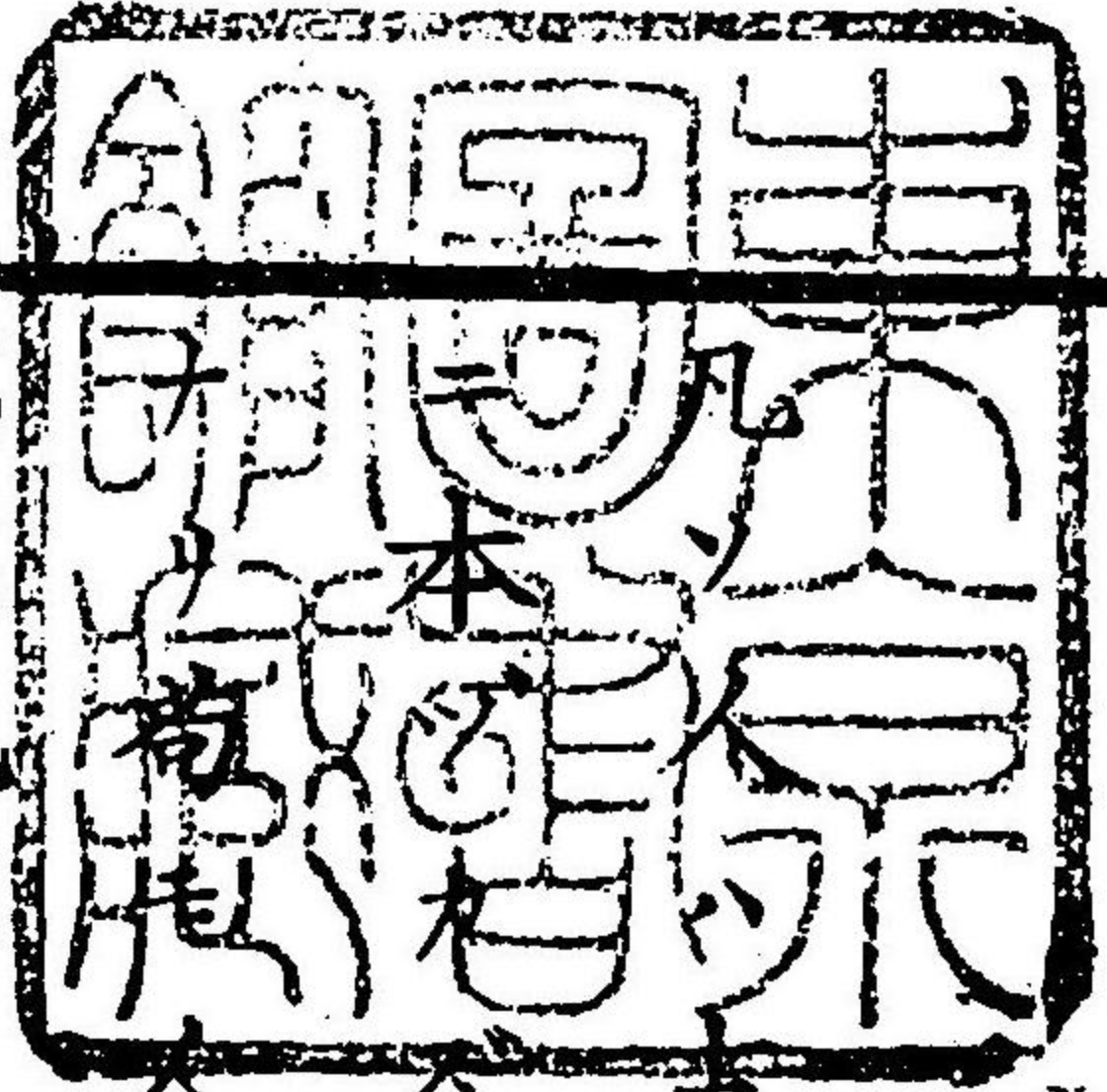
M11

ABB-0388





修理固成之說



修理固成之説

神道修成派

訓導中野政賛 編輯

吉事記ノ上卷ニ見ヘタル修理固成ノ大吉
 テハナラザレバ當派ヲ修成派ト唱フル
 大ニシテ修理固成ノ旨ヲ體認セザレバ異
 端邪説ノ徒ト云ベシ右修理固成ノ根本ハ皇國ヨリ
 出レバ皇國人ハ當派ヘ入社スル筈ナルベシ今修理
 固成ノ尊キ所以ヲ申述ルナラガ總テ今日ノ一萬
 事萬物修理固成ノ意味ニ非ルハナシ就テ其廉ヲ左
 ニ申述ルナリ抑我が誠ノ心ヲ立テ天神地祇ヲ尊敬

シ日々禮拜シ奉リ時々祭典ヲ執行ヘバ神祇感應シ
 給フ苟モ敬拜セザレバ其感應アルナシサレバ敬拜
 スレバ直ニ神祇ノ威靈ヲ顯サシムルナレバ神ヲ拜
 ムハ即チ神祇ヲ修理固成スルナリ我國ハ天照大
 神ノ詔リニテ寶祚天壤無窮ニ在セラルナレバ今ヨ
 リ萬歳ノ後迄モ寶祚ニ御動キナキハ無論ノコナリ
 サレテ御國體ノ原由ヲ熟知セザル者アリテ間ニハ
 我 天皇ヲ外國ノ天子ト唱フル者ト同様ニ見做ス
 者モ有キニ聞及ベバ我 天皇陛下ノ至尊至重ナル
 ヲ心得身分相當ノ義務ヲ盡シ皇國富強ニ至ル様ニ

心カヲ竭シ御國體確然ト立サセラレ 天皇陛下ノ
 御威光益御盛大ニ至ラセラル様ニ心カヲ盡スハ
 寶祚天壤無窮ヲ修理固成スルナリ從前祖先ノ靈多
 ク佛氏へ依頼シ神國ノ式ヲ以テ祭祀ヲ行ハザリシ
 ニ今神道ノ式ヲ以テ神トシ祭ル時ハ先祖即チ神ト
 ナル是先祖ヲ修理固成スルナリ我ヲ生ミタル大恩
 ノ親アルニ心ヲ盡シ親ノ心ニ合ヒ親ノ志ノ遂グル
 様ニ親ヲ悦バシメ孝道ヲ盡セハ親モ悦ビ人モ感心
 シ孝ノ體裁立ツ是親ヲ修理固成スルナリ凡ソ士民
 自己ノ權ヲ立ル能ハザル者ハ人ニ依頼セザルベカ

ラス主ヲ求メ身ヲ托シ其人ノ給與ヲ受ケ其人ニ從
ヘバ其主ノ爲ニ忠ヲ盡シ其主ノ益トナル様功ヲ立
ベシ是其主人ヲ修理固成スルナリ妻タル者ハ夫ニ
對シ貞節ヲ盡シ兩夫ニ事ヘザル操ヲ立家ノ内ヲ齊
治シ夫ノ輔ヲナスハ夫ヲ修理固成スルナリ召使ノ
僕ニハ愛ヲ加ヘテ非道ノ使ヒヲナサズ時々道理ヲ
申シ聞シ正直ノ人トナラシムル様取計フハ僕ヲ修
理固成スルナリ子ヲ育スルハ懇切ニスベキナレ
バ朝夕氣ヲ付テ病ナカラシメ威儀ヲ教ヘテ惡キ僻
ナカラシメ道ヲ教ヘテ天晴ノ人物ニ仕立ルハ子ヲ

修理固成スルナリ妻ハ靜ニシテ家ノ内ノコトヲ守ラ
シメ衣服飲食ノ世話ヲ致サシメ内事ヲ程能ク取扱
ハシメ婦人相當ノ志ヲ得サセテ安心ヲ得セシムル
ハ妻ヲ修理固成スルナリ兄ヲ敬ヒ大切ニシ家ヲ相
續スル様ニ仕立ルハ兄ヲ修理固成スルナリ弟ヲ教
ヘテ親ニ仕ヘシメ道ヲ心得サセ其志ヲ得ル様ニ取
扱フハ弟ヲ修理固成スルナリ朋友ニ實意ヲ盡シ懇
切ニシ朋友ノ爲トナル様世話致スハ朋友ヲ修理固
成スルナリ世ノ中ノ人ハ我ト同等ノコト思ヒ見ズ
知ラザル人トテモ精々行届ベキ處ハ世話致スハ是

世人ヲ修理固成スルナリ禽獸トテモ人ニ次ギタル
 生き物ナレハ成ベキハ愛シ其生ヲ全クスルヲ得
 セシメ特ニ牛馬ハ農業ノ助ケヲナス者ナレハ憐愛
 スルハ是禽獸ヲ修理固成スルナリ蟲魚トテモ同ク
 生モノナレバ魚モ一ツ食テ濟ムヲナレバニツ食ハ
 ズ精々生物ヲ多分食ハズ又魚ヲ取ルニモ小魚ヲ取
 ラズ大ニナリタル魚ヲ取繁殖ナル様ニ致シ蟲トテ
 モ害ヲナサバハ殺スヲナク蟲魚モ成ベキハ其
 生ヲ得セシムルハ蟲魚ヲ修理固成スルナリ總テ天
 地間ニ有ト在ル物何品ニテモ疎忽ニ遣ハザル様致

シ物ヲ愛シテ厭ヒ遣ハバ萬物澤山トナリテ不自由
 ナキニ至ル是萬物ヲ修理固成スルナリ當今ハ世人
 奢侈ヲ極メ日用ノ費ヘ多シ如此ニシテハ其家長久
 覺東ナシ總テ衣食住ノ一ハ飢寒ヲ禦ギ雨露ヲ凌ゲ
 ハ宜シト心得テ嚴ニ節儉スレハ必ズ家長久スベシ
 節儉スルハ家ノ長久ヲ修理固成スルナリ朝起シテ
 家業ニ勉勵シ夜モ晚ク迄起テ休息致サバレバ家必
 ズ繁榮ス是家ノ繁榮ヲ修理固成スルナリ身體ノ慾
 ヲ除キ一圖ニ靈魂ノ在ル所ヲ穿鑿シテ取調ベ我靈
 魂ヲシテ神祇ト同體ナラシム是靈魂ヲ修理固成ス

ルナリ我身ノ手足ト貌ヲ齊ヘシメ禮服ヲ着シ威儀
 ヲ正シクスルハ容貌ヲ修理固成スルナリ口ニ飲食
 スルニ節アリテ大酒大食セズ言語ヲ慎ミ無用ノ言
 ヲ發セズ要用ノコノミヲ發スルハ口ニ過チナシ是
 口ヲ修理固成スルナリ要用ノコヲ聞キ無用ノコハ
 聞カザルハ耳ヲ修理固成スルナリ有用ノコニ足ラ
 動カシ無益ノコニ足ラ運ハバザルハ足ヲ修理固成ス
 ルナリ妄リニ手ヲ出サズ取ベキ理ノ物ハ取ルモ取
 マジキ物ハ決シテ取ラザルハ手ヲ修理固成ズルナ
 リ世ノ中ノ人多ク靈魂ノ在ル所ヲ知ラズ漂タヒ居ル

コナルガ靈魂ハ體ノ内ニテ主本トナル譯柄ヲ教ヘ
 テ人物トスルハ世人ノ靈魂ヲ修理固成スルナリ此
 修成教ヲ弘ムルハ日本ノミナラズ五大洲ヘモ推廣
 メ外國ノ人ニテモ我教ヲ奉スルニ至ラシムルハ外
 國ノ人ヲ修理固成スルナリ當派ノ教規教約等ヲ派
 内社中ヘ遵守セシメ教籍ヲ誦讀シテ履行ハシメ總
 テ當派ノ教ヲ以テ人心ヲ固結スルハ修成派ヲ修理
 固成スルナリ世ノ中ノ人多ク佛ノ葬祭ヲ受ケ居レ
 在レ今神道ニ改式セシメバ神道固結シテ動カザルニ
 至ルサレバ從前依頼ノ寺院ヘハ離檀書ヲ差出シ其

地方廳へハ右届書ヲ差出シ其旨當派へ届出テ其家
 神葬式トナルハ神道ヲ修理固成スルナリ蠶糸ニ精
 出シ倍盛ナラシムルハ絹糸ヲ修理固成スルナリ農
 業シテ種ヲ時キ草ヲ除キ肥シ等ノ一ニ勉勵シ五穀
 豐熟ニ至ルハ五穀ヲ修理固成スルナリ凡ソ物ハ我
 ヨリ苦勞シテ出精スレバ必ズ生長シ吾侪居シテ勉
 勵セザレバ必ズ枯落ス實ニ我ヨリ奮發シテ出精ス
 レバ勢ヒヲ生ズ故ニ出精奮發ハ勢ヲ修理固成スル
 ナリ旅行スレバ修成派ノ定宿ニ泊ルナレバ不都合
 ノ一少ク他ノ宿屋ニ泊ルモ用心シテ手落ナカラシ

ムルハ旅行ヲ修理固成スルナリ派内ノ人當派布教
 課へ入り學問シ心ヲ磨キ身ヲ修メ是ヲ世ニ弘ムレ
 バ斯道盛大ニ至ル是レ道ヲ修理固成スルナリ今世
 ハ人力車或ハ馬車等アルニ此車ニ乘レバ大小身體
 ノ害トナリ且入費モカ、ル親ヨリ生付テクレタル
 自分ノ足ニテ歩行スレバ身ハ苦勞スルナレバ其實
 我身ハ壯健トナル是レ身ノ壯健ヲ修理固成スルナ
 リ外國ノ品ヲ買求ムレバ日本ノ貧ヲ招ケバ大抵事
 ノ辨ズル儀ハ日本ノ品ヲ用ヒテ事ヲ足ラシ外品ニ
 心ヲ寄セズ且金穀モ外國へ濫出セザル工夫ヲナセ

バ自然皇國富足ニ至ル是富國ヲ修理固成スルナリ
人ヲ説諭シ之レヲ小ニシテハ社ヲ取結ビテ人心ヲ
固結ス是一社ヲ修理固成スルナリ當派世話掛へ其
地方ノ人民數多服從シテ集會スル機アレバ成規ノ
手續ヲ以テ出願シ教務支局ヲ設立ス是レ支局ヲ修
理固成スルナリ商業ノ者ハ晝夜ノ別ナク商事ニ心
ヲ配リ正直ニシテ品物ヲ賣捌ケバ諸人集リ來リテ
其店繁昌ス正直ニ商業スルハ商業ヲ修理固成スル
ナリ華士族ノ人其身ヲ守リ其行ヒヲ正シ華士族ノ
體裁ヲ立テ人望ヲ失ハザルハ其門閥ヲ修理固成ス

ルナリ工業ヲ以テ活計ヲナス者ハ朝ヨリ晚マデ其
業ニ怠ラザル様骨ヲ折テ勤ムベシサレバ人ニモ競
テ雇^{ヤム}レ自宅ニテ作ル工業モ勉勵スレバ其品澤山ニ
作ラル是工業ヲ修理固成スルナリ水火ハ必用ノ品
一日モ缺ベカラズ水火ナケレバ忽チ差支トナル然
ルニ之ヲ用ユル其度ヲ失スレバ害ヲナシ火難等ノ
ヲアリ火ヲ用ユベキ時ニ火ヲ用ヒテ節ヲ失ハズ水
モ適當ノ處ヲ以テ用ヒ或ハ度ヲ失ハサズ夫々水火
ノ用ヲナサシム是レ水火ヲ修理固成スルナリ世ノ
中ニ書籍ヲ著述スル人モ數多アルニ世ノ益トナリ

人ノ爲トナル説ヲ編輯スレバ其書籍世ニ重ンゼラ
レ百世ノ後迄モ不朽ニ至ベシ是編輯ヲ修理固成ス
ルナリ當派管長邦光殿ハ幼年ヨリ道ノ爲ニ心カヲ
盡サレ明治六年以來ハ修成講社取結ノ爲ニ晝夜ノ
別ナク結社ニ苦勞シ給ヒ朝ハ雞鳴ニ起テ旅行シ又
日暮テ夜半迄モ往來致サレタルコアリ寒天ニ暴風
ヲ冒シ或ハ雪アル深山ヲ超ヘラレシ類枚舉ニ暇ア
ラズ實ニ平生教務ノ爲ニ須臾ノ休息モ在セラレズ
日々教務ヲ取扱ハレ實ニ勞苦ヲ以テ身ヲ固メラル
派内社中ハ邦光殿ノ志ヲ體認シテ教務ニ勞スルヲ

常トスベシ是レ身ヲ勞スルヲ修理固成スルナリ當
派ニ在リテ修理固成ノ大理ヲ根本トシ派内社中皆
修理固成ヲ遵奉ス我管長邦光殿此修理固成ヲ發明
シ給フコナルガ派内社中大恩ヲ忘却致サズ御教ノ
旨ヲ子々孫々ニ至ル迄遵守セシム是師恩ヲ忘却セ
ザルヲ修理固成スルナリ只今申述ル處ハ拙者ノ兼
テ教ヲ受ケ心得タル儘ヲ聊カ申述ルコナルガ萬事
是ニ準ジ修理固成ニアラザルハナシ故ニ當派へ入
社ノ人ハ朝夕口ニ修理固成ヲ幾度モ唱へ心ニハ此
意味ヲ失ハザル様ニシテ練熟致スベシ未ダ入社セ

ザル人ハ此修理固成ノ理ヲ須臾ノ間モ離ルベカラ
 ザル儀ヲ熟察シ速ニ入社致シ共ニ斯道ニ從事シ顯
 世ニハ善良ノ人トナリ死後ニハ善良ノ神トナリテ
 子孫ヲ守護シ人ニモ仰ガル、様ニナリタキナリ
 當時ハ外國ヨリ耶蘇教ヲ弘メントシテ所々へ教ヲ
 布ク趣キニ聞及ベバ皇國中ノ人ハ篤ト心ヲ付合ヒ
 我派ノ教ヲ篤ト承知致シ 天照大御神ヲ始メ奉リ
 歷代 天皇ノ御恩ヲ先祖以來受居ル、故此御恩ヲ
 思ヒ眼前至當ノ理ノ在ル所ヲ篤ト熟考シ必ズ外教
 ニ入ベキ理キニアラザルヲ知リ我神道修成教ニ入リ

テ道ヲ行フベシ海外ノ人真ノ道真ノ教ノ在ル所ヲ
 知ラザルト察スレバ我大日本帝國ヨリ道ヲ擴充シ
 テ修理固成ノ大旨ヲ守ラシメ總テ日本人ノ如クナ
 ラシムルニ在リ抑修理固成ハ天神ノ詔リナレバ此
 道ヲ弘ムレバ神慮ニ合ヒ其身幸福ヲ得ルハ相違ナ
 カルベシ世ノ中ニ祈禱々々ト云テ祝詞ヲ讀ミ僧侶
 ハ佛經ヲ讀ヨシナレ、氏真ノ祈禱ハ道ヲ弘メテ世人
 ヲ善良人トナラシムルニ在リ

附テ云拙者ハ淺學ニアレバ本書ニ述ル所ノ旨意
 ヲ發明スル者ニアラズ兼テ我修成派管長邦光殿

ノ教ヲ聞キ且當派布教課ノ説諭ヲ聞キ居ルナ
 ルニ聊愚考ヲ加ヘテ記載スルモノナレバ拙者ノ
 發明ト見做スベカラズ依テ茲ニ一言ヲ加ヘ置テ
 ナリ抑本文ニ述ル處ノ説ヲ感服スル人ハ此旨ヲ
 イテ世ノ人民ヘ説諭スベシ且教法ハ信仰次第海
 内ノ人民當派ヘ入社致スモ差支ナケレバ入社ヲ
 勸ムベシ

修理固成之説終

定價金錢

明治十一年五月十四日御届

武藏國入間郡下寺山村

編輯人

訓導 中野 政 賛

東京駒込西片町九番地寄留

出版人

山田 龜一郎

